

前回の静岡県河川審議会での主な委員意見について

No.	委員意見	分類
①	井田大川・沢海川において、伏流していることによる危険性はあるのか。	治水
②	大きい石がごろごろしている自然河道の下流が、非常に勾配が急な三面張りになっている。出水時に、巨石が下流に落ちてきて非常に危険だと思われる	治水
③	流量を左右均等にならすのではなくて、守るべき左岸側をどう守っていくかという視点を入れた、川の成り立ちを考えた治水計画を考えたほうが良い。	治水
④	「命と景観とどちらを重視するか」が大変重要。	治水
⑤	地形的に制約があるところでは、確実に逃げられる整備を急いだほうが良い。	治水
⑥	50年にわたり大きな災害がないということは、山に災害の危険性が蓄積されている。過去に起きた災害の経験などを伝承する機会があると良い。	治水
⑦	井田大川・沢海川において、伏流した水が、コンクリートの底張りで川に戻れないということはないのか。	環境
⑧	井田大川・沢海川において、背後地の井戸水とか水利用等を十分踏まえた上で、できるだけ川に水が連続する姿を求めたほうが良い。	環境
⑨	伊豆であれば、富士山が見えて海が見えるという美しい景観、自然環境中で、どういうデザインが日本の川らしいのかとかいう部分を入れていかなければいけない。	環境
⑩	河川愛護の方と草を切るタイミングなどを話し合うなど、より効果的な方法をやり方をしたらどうか。	環境
⑪	海とどう生きていくか考えることが、河川計画のなかで景観を考えることにつながる。	全般
⑫	一番重要な川と海とが接する部分をこれからどう仕立てていくのか、大きな伊豆半島の流れも含めて検討すべき。	全般
⑬	地域社会が持続する手段として河川をどう見るかを、理念に盛り込んでほしい。	全般
⑭	人口が減っても、観光や、自然を求める人を呼び、新たな産業になるかもしれない。俯瞰的な目と、3河川の違いと、あと全体で考えるという視点が、河川方針の中に少し盛り込まれると、まちづくりの話し合いのときにも生かせるのではないかと思います。	全般